

地域の防火・防災だより

青葉

AOBA

令和元年東日本台風(台風19号)～停電復旧作業の概要・今後の課題について～

東北電力株式会社 ビジネスサポート本部 総務部(総務) 竜沢 歩

令和元年東日本台風(令和元年10月発生)【以下、台風19号】により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれた皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

台風19号は、2019年10月6日3時にマリアナ諸島の東海上で発生、12日に日本に上陸し、東北地方では12日夕方から13日未明にかけて局地的に猛烈な雨となり、宮城県では最大13,308戸、延べ25,318戸が停電するなど、甚大な被害をもたらしました。当社は、発災前日の11日に警戒体制を発令し、翌日には非常体制に切り替えるとともに被災自治体にリエゾン(情報連絡員)を派遣するなど停電復旧作業に向けた体制を整えました。被害の大きかった地域に対しては、県内外から応援隊を派遣し、延べ1,455人(県外からの応援：延べ618人、企業グループ含む)が停電復旧作業にあたりました。

停電が発生してから3日後には、土砂崩れや道路崩落等により復旧作業に従事できない場所を除き停電を解消することができましたが、停電が継続している地域については、送電の見通しを含めた個別送電エリアの地図を作成し、避難所に掲示して避難者へ広く周知するなど不安解消に努めました。特に被害が甚大であった丸森町では、土砂崩れや道路崩落が多く発生したため復旧に時間を要しましたが、宮城県と自衛隊との連携による道路啓開等をはじめ、工事・委託会社の応援により、停電発生から21日後の11月2日に全戸復旧となりました。

また、12月には、丸森町にて、被害に伴う災害ボランティア活動として、被災者のご自宅の泥かきや土嚢作り等を実施し、被災者の方々や他のボランティアの皆さまとのコミュニケーションを深めることができました。

災害は、様々なケースが考えられ、リスクを全て排除できないことから、日ごろから社内で意見交換を図り、より良い対策を講じるなど、リスクを最小限にするリスクコントロールが必要と考えております。近年は、台風による水害が増えている状況にあり、今後は平時の備えとして、災害訓練に水害を想定した項目を加えるなど、検討・充実を図ってまいります。また、コロナ禍における、県内外からの応援隊派遣の判断、応援隊宿泊先の確保、自治体との連携など、新たな課題も生じてきており、普段からリアルな訓練を実施し、一つ一つ検証していくことが大切と考えております。災害対応に正解はありません。今回の災害対応から何を学び、何を次に残していくか社員全員で共有する必要があります。本災害における対応や危機意識を風化させることなく、明らかになった課題の解決に向け、地域の皆さまと一体となって取り組んでまいります。

東北電力株式会社は、令和2年4月1日に送配電部門を東北電力ネットワーク株式会社に分社いたしました。災害発生時は両社が一体となり対応してまいりますので、引き続きご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。



暴風により折れた電柱



電源車による停電復旧作業



被災した地域でのボランティア



浸水した地域での停電復旧作業